



④八幡座コース現況

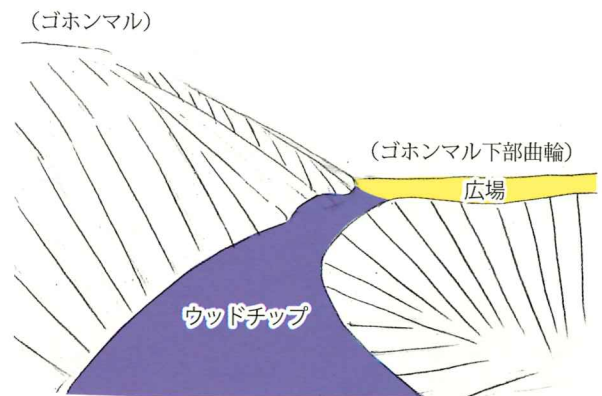


④八幡座コース整備イメージ

④八幡座コース:「八幡座」や「ゴホンマル」へ至るルート上には、片側が崖になった狭い道を通る場所がある。これまでの利用により道の一部がへこんだり路肩が欠けたりしている場所は土を盛る、土嚢を積むなど対策を講じ、必要に応じて手すりやロープを設置する(図7の④、桃色部分)。



⑤八幡座コース現況

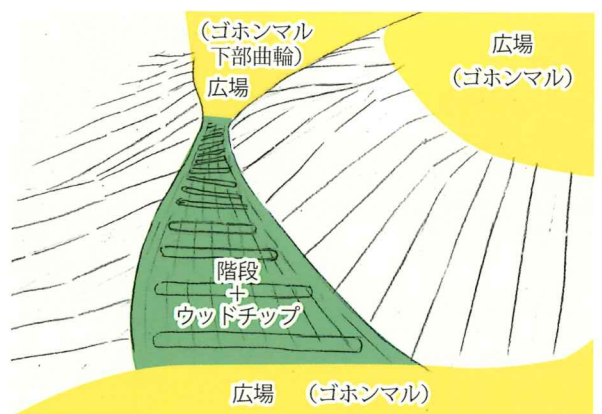


⑤八幡座コース整備イメージ

⑤八幡座コース:ゴホンマル下部で帯曲輪から曲輪へ進入する部分は、横断方向の勾配を修正したうえで、ウッドチップを敷いて散策路だと認識できるように整備する(図7の⑤、青色部分)。



⑥八幡座コース現況

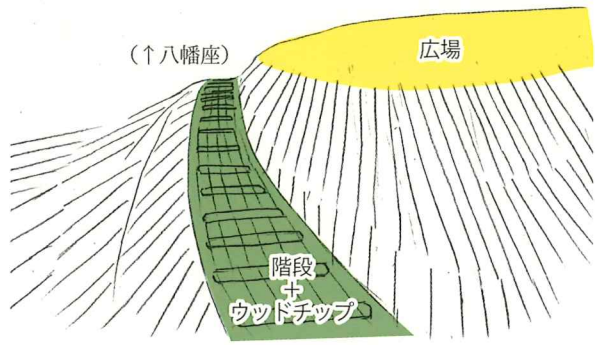


⑥八幡座コース整備イメージ

⑥八幡座コース:「ゴホンマル」入口となる傾斜部は、階段を設置して安全確保を図る。その際、遺構を傷つけないように配慮する(図7の⑥、緑色部分)。



⑦八幡座コース現況

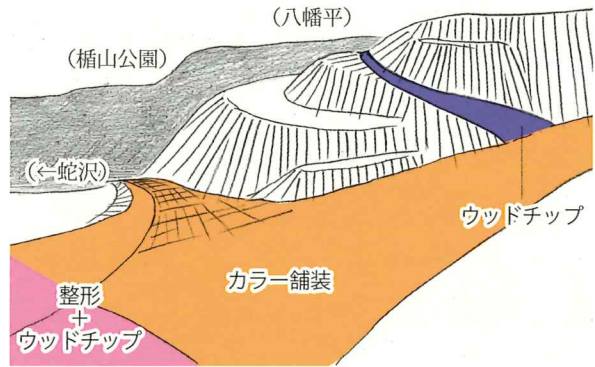


⑦八幡座コース整備イメージ

⑦八幡座コース：「八幡座」北側の曲輪へでは、遺構を壊さないように配慮しつつ、安全確保のために階段を設置する（図7の⑦、緑色部分）。



⑧蛇沢コース現況



⑧蛇沢コース整備イメージ

⑧蛇沢コース：平成 25 年度の災害復旧工事で工所用道路に使用した砂利道部分は、工所用道路の路盤を利用して、楯山公園入口及び蛇沢中流部同等のカラー舗装を行う（図7の⑧、オレンジ色部分）。



⑨蛇沢コース現況

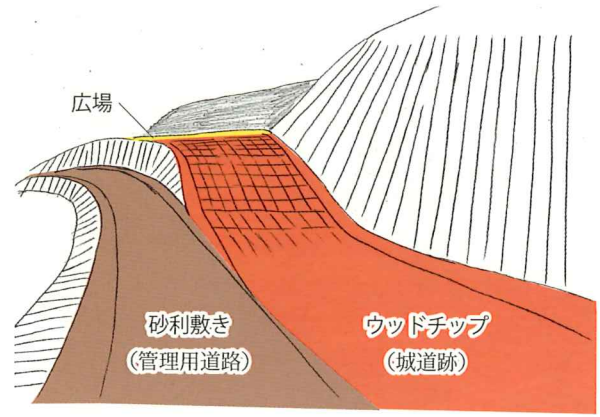


⑨蛇沢コース整備イメージ

⑨蛇沢コース：蛇沢コース中流でカラー舗装されている部分の末端以降は、遺構があることと民有地であることからカラー舗装の延長は行わない。舗装部の下流では、車両の通行を想定する管理用道路部は砂利敷きにする（図7の⑨、茶色部分）。城道とみられるスロープ部分はウッドチップ敷く（図7の⑩、赤色部分）。



⑩蛇沢コース現況

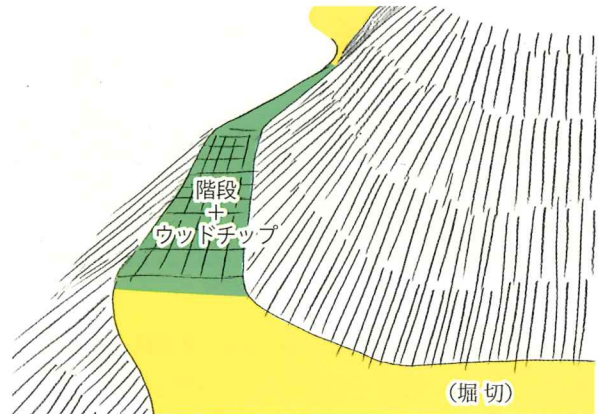


⑩蛇沢コース整備イメージ

⑩蛇沢コース：発掘調査で、スロープ状の地形や布堀など城道の跡が確認された曲輪入口部分は、ウッドチップを敷いて城道を生かした散策路を整備する（図7の⑩、赤色部分）。蛇沢沿いの管理用道路は砂利敷きの管理用道路として、来訪者の立ち入りを制限する（図7の⑩、茶色部分）。

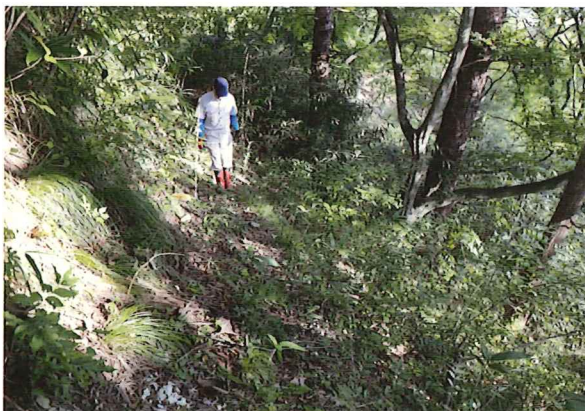


⑪鉄砲場コース現況

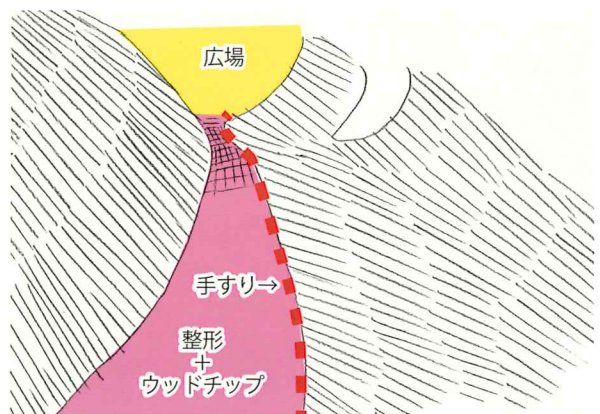


⑪鉄砲場コース整備イメージ

⑪鉄砲場コース：堀切から南側の曲輪に登る部分は傾斜が急な斜面を通る。斜面を通る場所は城道の復元ではなく散策に必要な通路として整備を行う。できるだけ地形の改変を避けつつ安全確保のために階段を設置する（図7の⑪、緑色部分）。



⑫鉄砲場コース現況

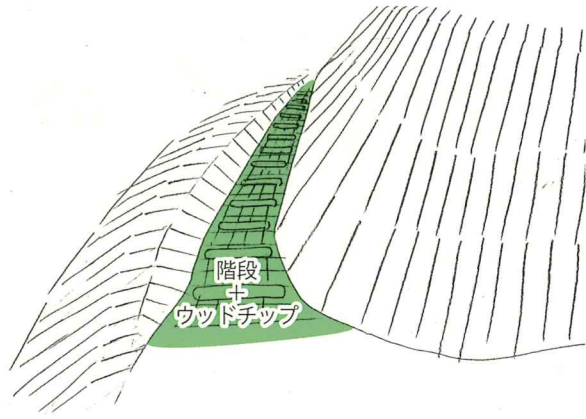


⑫鉄砲場コース整備イメージ

⑫鉄砲場コース：「鉄砲場」と呼ばれる土塁状の構築物の横を通る場所は、崖に面した細い道が散策路となる。道の南側は最上川に面した崖となっているので、道幅を確保するために路面を整形し、南側に手すりやロープを設置して安全確保を図る（図7の⑫、桃色部分）。



⑬鉄砲場コース現況



⑬鉄砲場コース整備イメージ



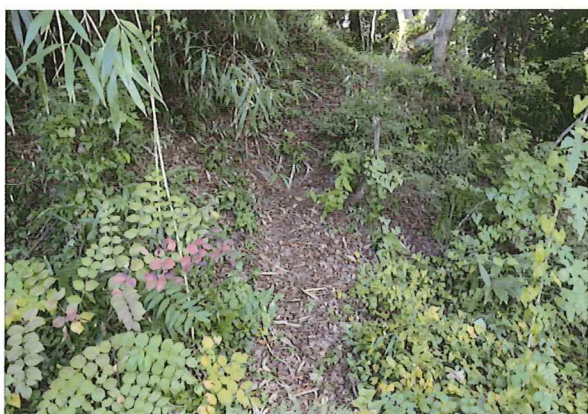
⑬鉄砲場コース現況



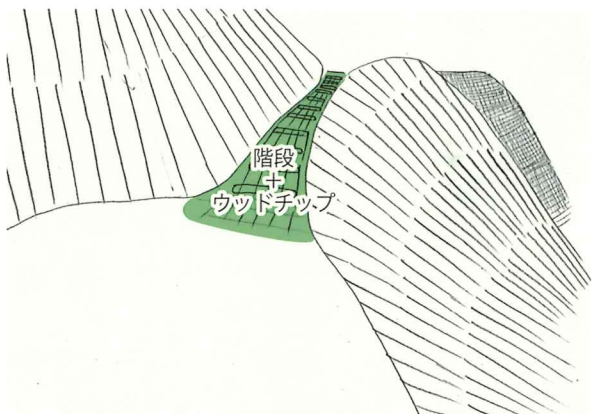
⑬鉄砲場コース整備イメージ

⑬鉄砲場コース：曲輪と曲輪の間の急な斜面に道がなく上りやすい場所の藪を掻き分けて通行している場所である。刈り払いを行って通りやすい場所を確認した後、散策路とする場所に階段を設置して安全確保を図る（図7の⑬、緑色部分）。

なお、鉄砲場コースが通る堀切と楯山公園間の尾根上は、これまで発掘調査を実施していないため、階段や手すりなどを設置する際は、遺構の保存を図るために地形の改変を最小限に抑え、掘削を行う場合は事前調査や工事時における立会い調査を実施する。



⑭鉄砲場コース現況



⑭鉄砲場コース整備イメージ

⑭鉄砲場コース：曲輪と曲輪の間の斜面部で、曲輪が畑として利用されていた頃、道として使用されていた場所である。階段を設置し安全確保を図る（図7の⑭、緑色部分）。

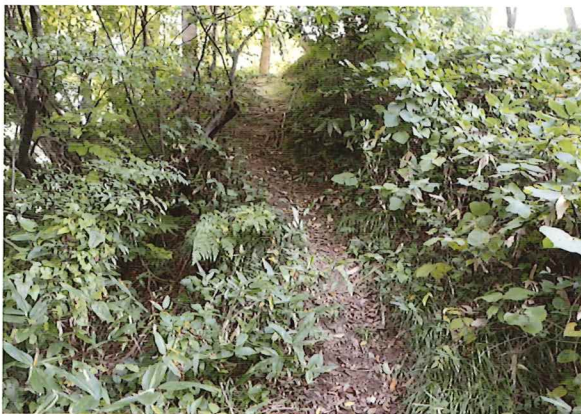


⑮鉄砲場コース現況

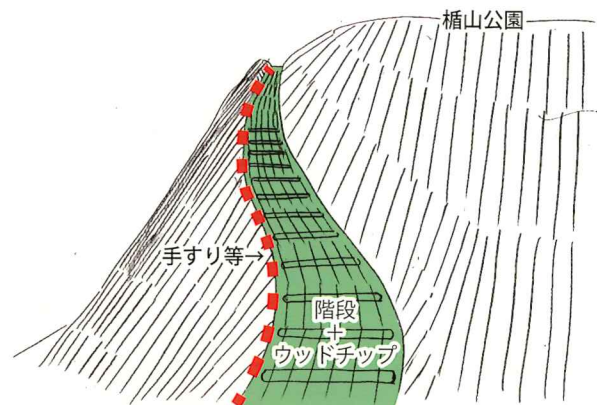


⑮鉄砲場コース整備イメージ

⑮鉄砲場コース：曲輪が畑として利用されていたころ道として使用されていた場所である。階段を設置し、必要に応じて手すりやロープを設置して安全確保を図る（図7の⑮、緑色部分）。



⑯鉄砲場コース現況



⑯鉄砲場コース整備イメージ



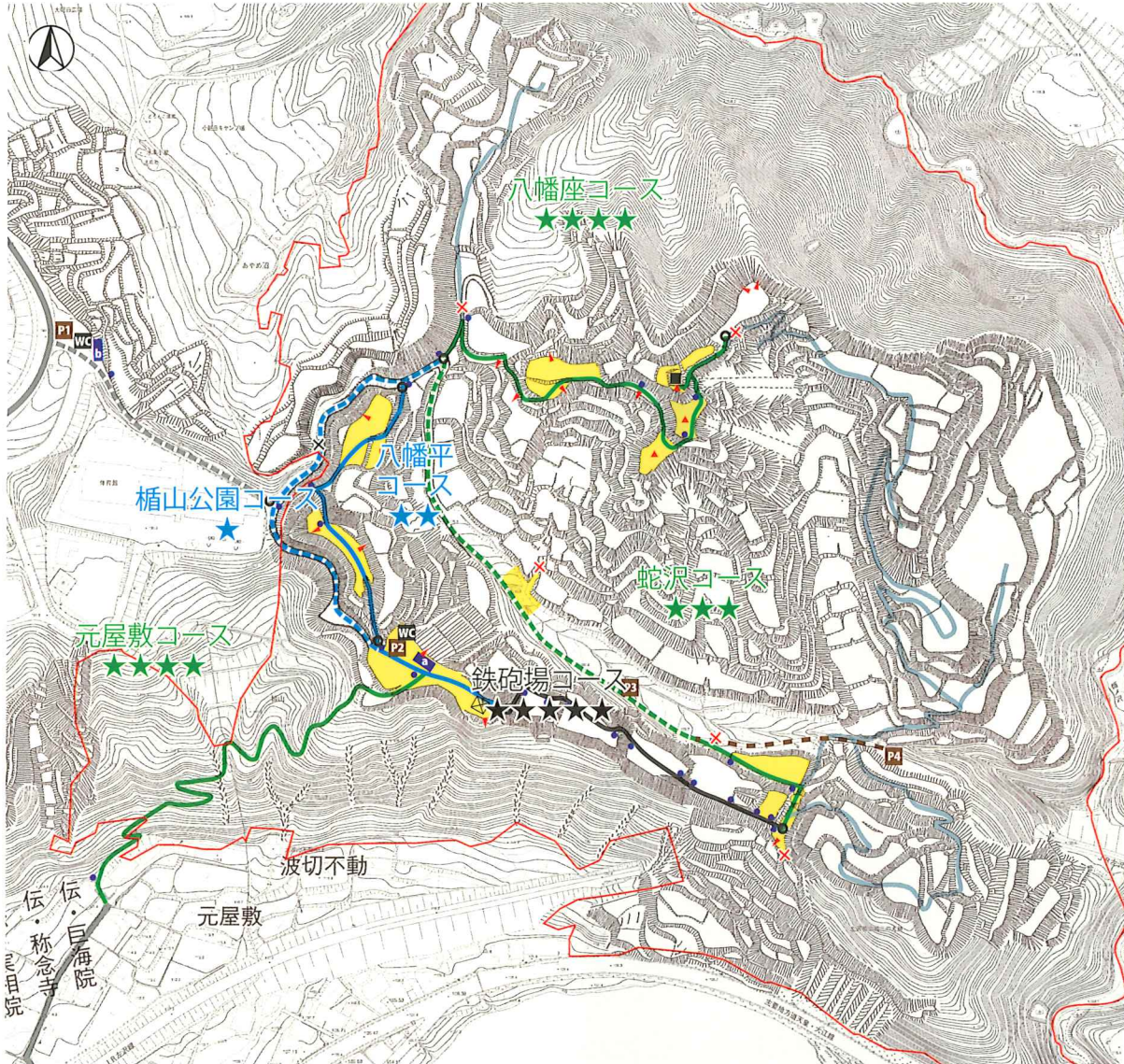
⑯鉄砲場コース現況2

⑯堀切コース：鉄砲場コースから楯山公園へ登る斜面である。斜面の長さが長く勾配が急で、公園入口部分では岩盤が露出している。岩盤露出部は濡れると滑って危険である。階段や手すり、ロープを設置して安全確保を図る（図7の⑯、緑色部分）。

なお、地山の岩盤が露出している場所では、城の地形保存の観点から梯子状の階段を設置するなど、できるかぎり岩盤を削らないで施工する方法を検討する。

ところで、左沢楯山城では山城という遺跡の性質上、山城全域にバリアフリーの散策路を設けることができないため、通行の難易度を道標に表示する（図8）。

たとえば、堀切から尾根上を歩いて楯山公園へ至る「鉄砲場コース」には急な斜面（切岸）があるが、遺構保存の観点から切岸を削って勾配の緩い道を作ることが困難なので難易度★5つ、一方で蛇沢から八幡座への「八幡座コース」は比較的勾配はゆるいが駐車場から距離があるので難易度★4つ、駐車場から楯山公園周辺の「楯山公園コース」はほぼ平らで舗装されているので難易度★1つなど、来訪者向けの表示を行う（図8）。



凡 例

- | | | | | | | |
|---------------|---|----------------|-------------|-----|-------|---------|
| 視点場：眺望 | ▲ | 駐車場 | P1 P2 P3 P4 | 難易度 | ★★★★★ | 鉄砲場コース |
| 視点場：周辺地形＋眺望 | ▲ | ※P1：一般来訪者 | | 高い | ★★★★ | 八幡座コース |
| 第1期整備管理用道路 | — | P2：思いやり駐車場 | | 中 | ★★★ | 元屋敷コース |
| ※散策路供用部は破線で表示 | — | P3・P4：管理、緊急車両用 | | 低い | ★★ | 蛇沢コース |
| 第2期整備散策路 | — | トイレ | WC | | ★ | 八幡平コース |
| 指定地外からのアクセス路 | — | 東屋（既設） | ☒ | | | 楯山公園コース |
| 広場 | ■ | 道標 | ● | | | |
| 遺構表示 | ■ | 立入り制限表示（徒歩） | × | | | |
| 史跡指定地 | — | 立入り制限表示（車両） | × | | | |
- 0 100m
1:4000

図8 難易度別コース図

なお、第1期整備で散策路を設置する場所は、城道または城道の可能性が高い場所と、整備上必要なことから道として整備する城道以外の場所の両方が含まれる(図9)。これらの区別については、城道に関わる部分には「帯曲輪」や「虎口」など城の構造を紹介する説明板を設置する、来訪者に配布する散策マップなどの印刷物に色分けして表示するなど、現地で城道かどうか分かるよう工夫を行う。

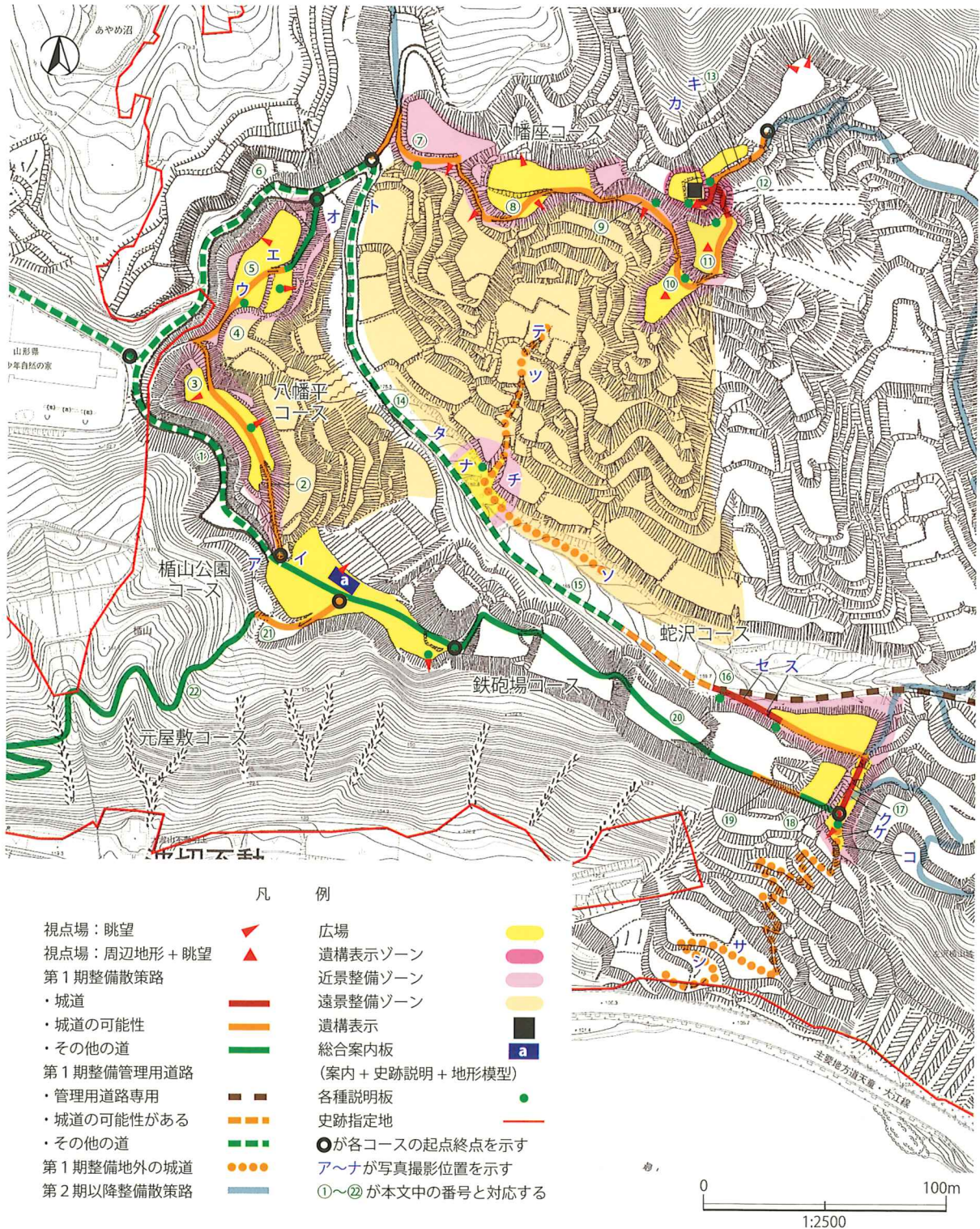


図9 城道とその他の道

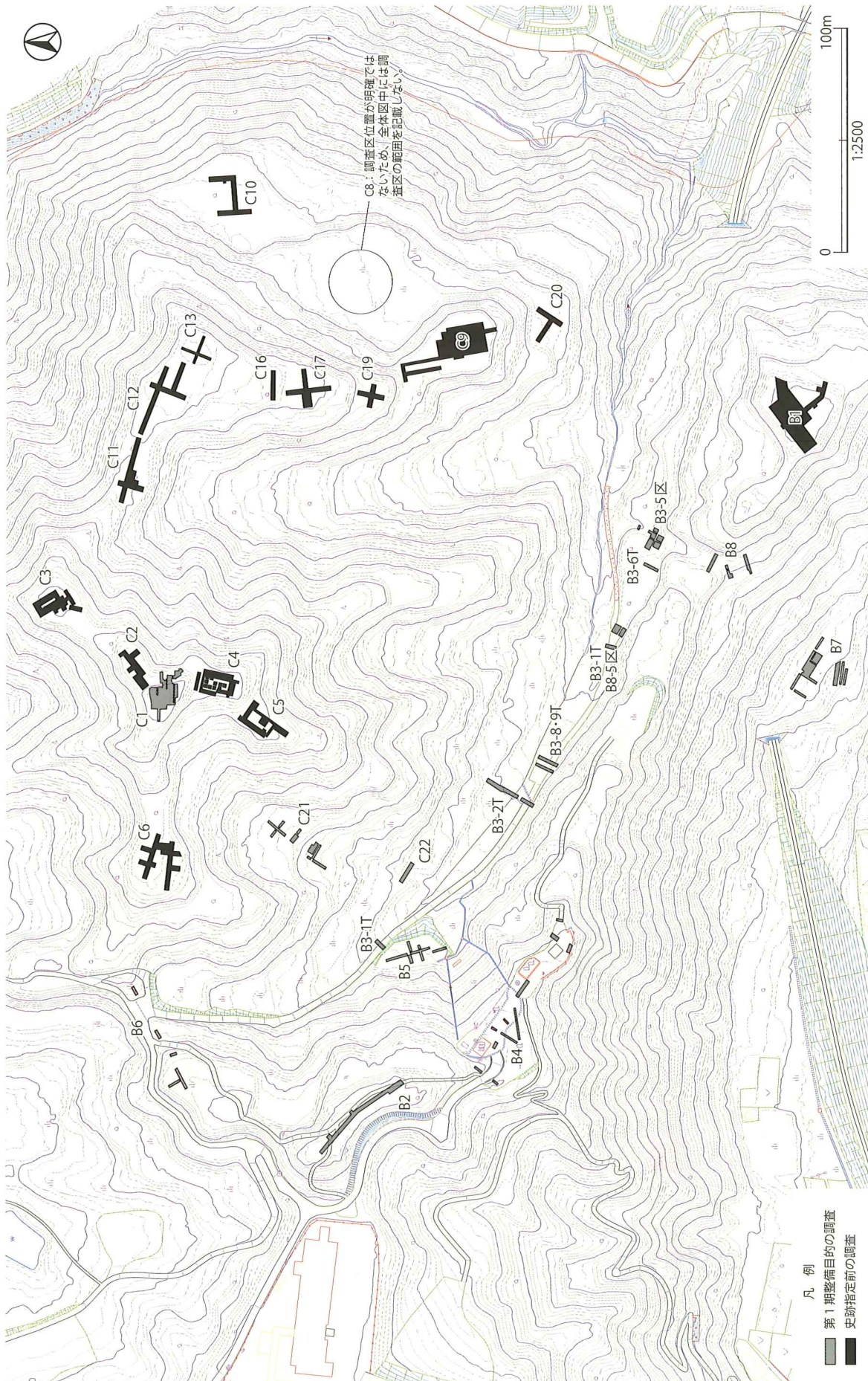


図 10 発掘調査箇所位置図

凡例

- 第1期整備目的の調査
- 史跡指定前の調査

② 城道と散策コース毎の整備

【楯山公園コース】国道 458 号沿い駐車場から楯山公園へ至る史跡へのアクセス路であり、楯山公園から「八幡平」へ登らずに蛇沢へ至る道である（図 9-①）。城道ではない場所か、城道か分からない場所を通る。朝日少年自然の家の東側から楯山公園の間はアスファルト舗装、公園入口部はカラー舗装がされている。一方で、朝日少年自然の家の東側から蛇沢上流までは平成 25 年から実施した災害復旧工事により砂利敷きとなっている。

「楯山公園コース」は、史跡の管理上必要な道として現在使用している道の整備を行う。既舗装部はそのまま使用し、砂利敷きの場所は散策路を兼ねる管理用道路としてカラー舗装を行う（図 7）。

なお、一部史跡指定地外が含まれるが、所有者と協議のうえ指定地同等の舗装など整備を予定する。



図 9-ア 楯山公園入口（楯山公園コース、その他の道）

【八幡平コース】楯山公園から「八幡平」へ登り、土橋を渡って蛇沢上流部へ至る道である（図 9-②～⑥）。

「八幡平」は神社が祀られていたとの伝承があり、発掘調査で柱穴が検出されている。縄張調査では、楯山公園から「八幡平」へ登る道（図 9-②）は後世の整備の手が加わっているが道沿いに腰曲輪を配置し防御を固めた様子が見られること、「八幡平」から北へ下る道（図 9-③）は、土橋（図 9-④）を経た曲輪からの虎口となることが指摘されている（大場 2007）。また、「八幡平」から土橋を経た曲輪は、トレンチによる発掘調査では建物跡などは検出されなかったが、複数回にわたる造成によって現在の地形が造られたことが確認された（図 10 の B6）。上位の土層に見られる新しい時代の造成は果樹園に伴う可能性が高いが、下位の土層に見られる造成の跡は城と関わる可能性がある。なお、曲輪から蛇沢上流へ至る道（図 9-⑤、⑥）は、当該地が果樹園として使用された時期に改変を受けていて、城道かどうか確認することができない。



図 9-イ 八幡平登り口（八幡平コース、城道とみられる）



図 9-ウ 土橋（八幡平コース、城道とみられる）

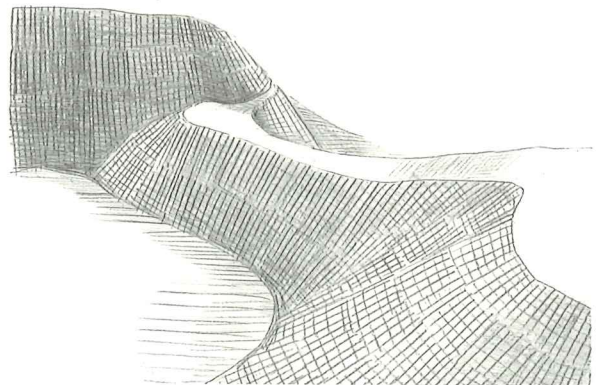


図 9-ウ 土橋地形イメージ（八幡平コース）

楯山公園から「八幡平」を経て土橋を経由し平場に至るまでの道は城路の可能性が高いため、土橋や「八幡平」などに説明板を設置する。また、楯山公園から「八幡平」の登り口に設置された階段を再整備し、「八幡平」と土橋の間の急な傾斜の部分に階段を設置する（図7-①、②）。土橋から曲輪を通して蛇沢上流へ至る間の曲輪周辺では、平場と平場をつなぐ道にウッドチップを敷き、平場は刈り払いを行い自由に歩きまわれる広場として整備する（図7）。



図9-エ B6 調査区2 T土層断面（八幡平コース）



図9-エ B6 調査区5 T土層断面（八幡平コース）



図9-エ B6 調査区全景（八幡平コース）



図9-オ 曲輪出口現況（八幡平コース、その他の道）

【八幡座コース】蛇沢上流から山頂「八幡座」へ至るコースである（図9-⑦～⑬）。城の中核をなした「八幡座」や「ゴホンマル」 1 帯を含む。城道と考えられる場所や、発掘調査で遺構を確認した場所を通る。

蛇沢上流を北へ延びる尾根から分岐して東へ登る道沿いの曲輪群は、山頂「八幡座」周辺の「西への備えであると同時に、八幡平との連絡を確保するという意味からも重要な曲輪群」とされている（大場 2007）。上り始めて2つ目の2段に分かれた曲輪（図10のC6・7）では柱穴跡が検出され、物見が置かれたとの指摘がある。縄張調査では虎口も確認されている。そこから帯曲輪を通過して「ゴホンマル」（図19のC4）や「八幡座」（同図C1）と呼ばれる城の中核を構成する曲輪群へ登ってゆく。「ゴホンマル」では発掘調査で2方向に縁のつく3×5間の建物が検出された。左沢楯山城跡の主殿とみられている（図11）。また、山頂「八幡座」では縄張調査で南方の帯曲輪へ続く虎口の存在が指摘されており、発掘調査では井楼櫓の可能性のある2×2間の建物跡や複数の一列に並ぶ柱穴跡、曲輪東側から折れ曲がって曲輪に進入する登り口の形状が確認された（「(4)遺構の表示」参照）。

八幡座コースの大部分は城道の可能性が高い場所である。なかでも「八幡座」の虎口は発掘調査成果をもとに虎口の地形を復元して散策路を設置する。遺構建物の表示とあわせて第1期整備のシンボリックな場所とする。また、蛇沢上流部で道沿いの崖が崩れた場所（図7-③）に手すりを設置し、曲輪間の狭い道（図7-④）では横断方向の路面の傾斜を補正するよう土を盛り、必要に応じてロープや手すりを設置する。その他の場所では、発掘調査が行われた曲輪は広場として曲輪を自由に歩き回れるように整備し、曲輪と曲輪をつなぐ道や帯曲輪には、現在の地表の上にウッドチップを敷いて動線を明確化する（図7）。また、「ゴホンマル」へ登る斜面部（図7-⑥）と、八幡座南東部の曲輪間の斜面部（図7-⑦）は、階段を設置する。



図9-カ「八幡座」虎口2（八幡座コース、城道）



図9-カC1 調査区 虎口3（八幡座コース）



図9-キ「八幡座」南東帯曲輪（八幡座コース、城道とみられる）

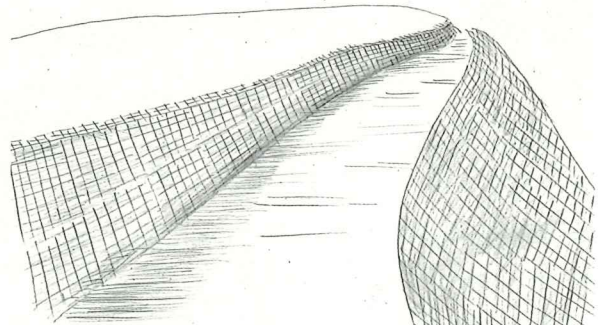


図9-キ「八幡座」南東帯曲輪（八幡座コース、地形イメージ）



図9-カ C1 調査区 虎口1
(八幡座コース)



図9-カ C1 調査区 虎口2
(八幡座コース)



図9-カ 「八幡座」虎口1
(八幡座コース、城道)

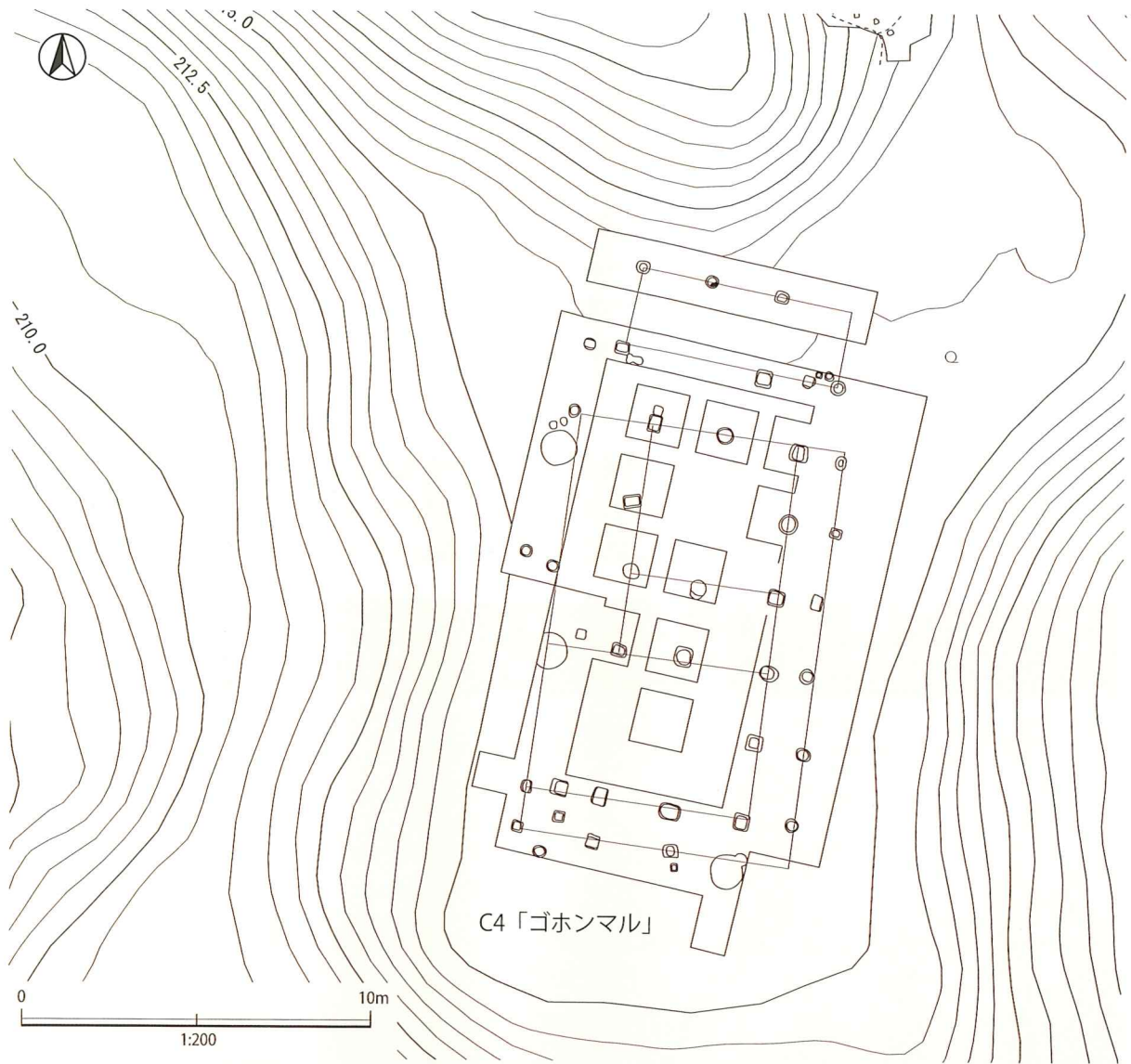


図 11 C4 調査区平面図 (下の写真は C4、C5 調査区全景)

【蛇沢コース】蛇沢に沿って下り沢の下流部で南側に位置する堀切へ至る道である（図9-⑭～⑰）。

〔最上川～堀切の調査〕堀切は最上川に面した斜面を登ると必ずそこに導かれる重要な場所と指摘されている（大場 2007）。堀切の発掘調査（図9のB8-3T）では、現在の地表より1m以上深い位置で岩盤が底の平らな箱堀状に整形されているのを確認した（図13）。現在の地形に至るまでには自然の堆積だけではなく、少なくとも2回は人為的に埋められたとみられる。

また、堀切南側斜面の曲輪群で最も広い曲輪の発掘調査（図14のB7）では、坂虎口状の地形を横断するように並ぶ柱穴跡や門の可能性のある建物跡などを検出した。唐津の陶器や輸入磁器など最上氏が左沢楯山城跡を支配した16世紀末～17世紀初頭の遺物も複数出土し、最上川舟運や出羽合戦をにらんで最上氏がこの曲輪の整備を行った可能性がある。このように、南側斜面の曲輪群や堀切は城が機能した時代に整備された可能性が高く、最上川に面した南側斜面を登って堀切へ至り、箱堀底を通して城内へ入るルートは、重要な登城路の一つであったことが推察される。

〔堀切～蛇沢の調査〕堀切から「八幡座」など城の中核へのルートを検討すべく、堀切南側から曲輪を経て蛇沢へ下るスロープ部（図15）、さらに蛇沢沿いで現在道が通っている場所（図16のB3-1T）、蛇沢北側の八幡座地区谷部への登り口（図17のC22）と谷部の平地（図18～20のC21）で発掘調査を実施した。



図9-ク
B8 調査区 1T 堀切跡
（蛇沢コース）



図9-ク 堀切
（蛇沢コース、城道）

その結果、スロープ部の土層から堀切南西の曲輪から蛇沢へのスロープは人工的に造成されたことが確認され（図 15 の B3 - 7 区）、スロープの延長上には、今の道路の下に幅 1 間程度の平坦面と布堀の跡が平行して確認された（図 16 の B3 - 1T）。

なお、蛇沢中流部で沢を横断するように設定したトレンチ（B3 - 2T）では、現在の谷底面の下に古い沢が埋没していることと、蛇沢北側の丘陵裾で溝跡や柱穴跡を確認した。一方、蛇沢上流部の楯山公園南東に設定したトレンチ（同 3T）では、今の道の場所では岩盤が丘陵から沢へ落ち込んでおり、現在と同じ場所には道がなかったことを確認した（図 10）。

〔八幡座地区谷部の調査〕 今回の整備対象地には含まれないが、八幡座地区谷部登り口を横断するように設けたトレンチ（図 17 の C22）の堆積状況から、かつてはこの場所に沢が流れていたがそれを埋めて道として利用したこと、また、八幡座地区谷部の平坦面に設けた調査区（図 18、19、20 の C21）では複数の柱穴跡や溝跡（図 18、19）、土を盛って平場の縁を整形した跡（図 20）などを確認した。

城が機能した時代に含まれる 16 世紀の越前の壺や甕、瀬戸美濃の陶器などが出土しており、放射性炭素による年代測定でも遺物と矛盾しない結果が出ている。

〔登城路の推定〕 以上のことから、堀切を通る登城路は、城内へ入って堀切南西の曲輪を通り抜け、蛇沢に沿って上流へ向かい、いずれかの場所で沢を横断して八幡座地区の谷部を登り「ゴホンマル」や「八幡座」といった城の中核へとつながっていた可能性がある。

〔蛇沢コースの整備〕 「蛇沢コース」のうち堀切から蛇沢沿いの一部はこのルートに重なっており城道の可能性が高い。なかでも発掘調査で遺構を確認した堀切や曲輪出入りのスロープ部、蛇沢沿いの布堀跡と平場跡は、道沿いに説明板を設置して発掘調査で確認した遺構を説明する（図 9 - ⑯、⑰）。また、発掘調査を実施した八幡座地区谷部の登り口は地形が見えるように刈り払いを行って蛇沢コース沿いに説明板を設置し、堀切ースロープー蛇沢沿いの一連の道につながる登城路を示唆する。

一方で、「蛇沢コース」は車両が通行する管理用道路を兼ねている。平成 25 年度からの災害復旧工



図 9 - ⑨ B8 調査区 2T（蛇沢コース）



図 9 - ⑩ B8 調査区 3T（蛇沢コース）



図 9 - ⑪ B7 調査区遺構検出状況（蛇沢コース関係）



図 9 - ⑫ B7 調査区 7 ~ 9T（蛇沢コース関係）



図9-ス B3 調査区7区
(蛇沢コース)

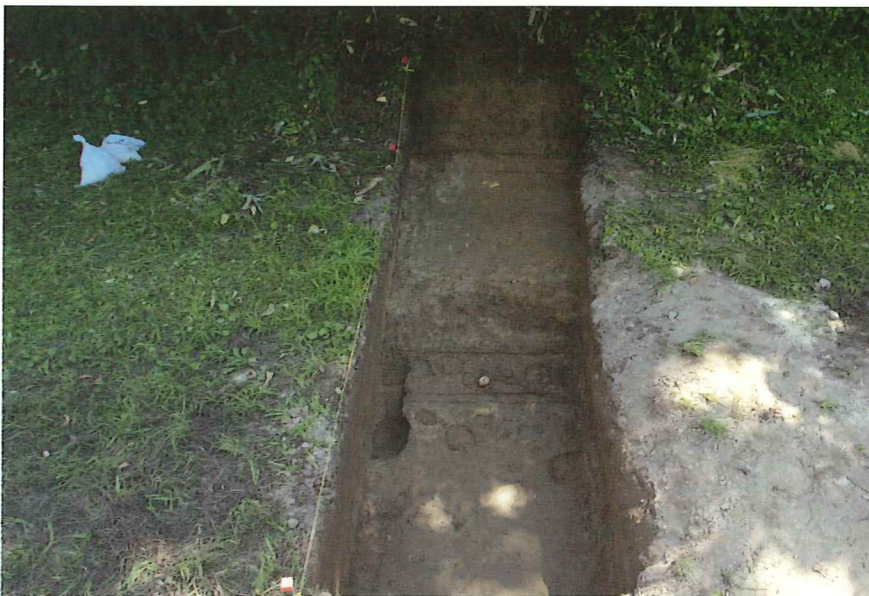


図9-セ B3 調査区1T
(蛇沢コース)



図9-セ
堀切南西曲輪入口付近
(蛇沢コース、城道)



図9-ソ B3 調査区 2T (蛇沢コース)



図9-タ B3 調査区 3T (蛇沢コース)



図9-ツ C21 調査区全景 (蛇沢コース関係)



図9-ツ C21 調査区 3T、5区溝跡 (蛇沢コース関係)



図9-ツ C21 調査区 3T、5区土層断面 (蛇沢コース関係)



図9-テ C21 調査区 4T (蛇沢コース関係)



図9-ト 蛇沢上流部 (蛇沢コース沿い、その他の道)



図9-ナ 蛇沢中流部 (蛇沢コース沿い、その他の道)

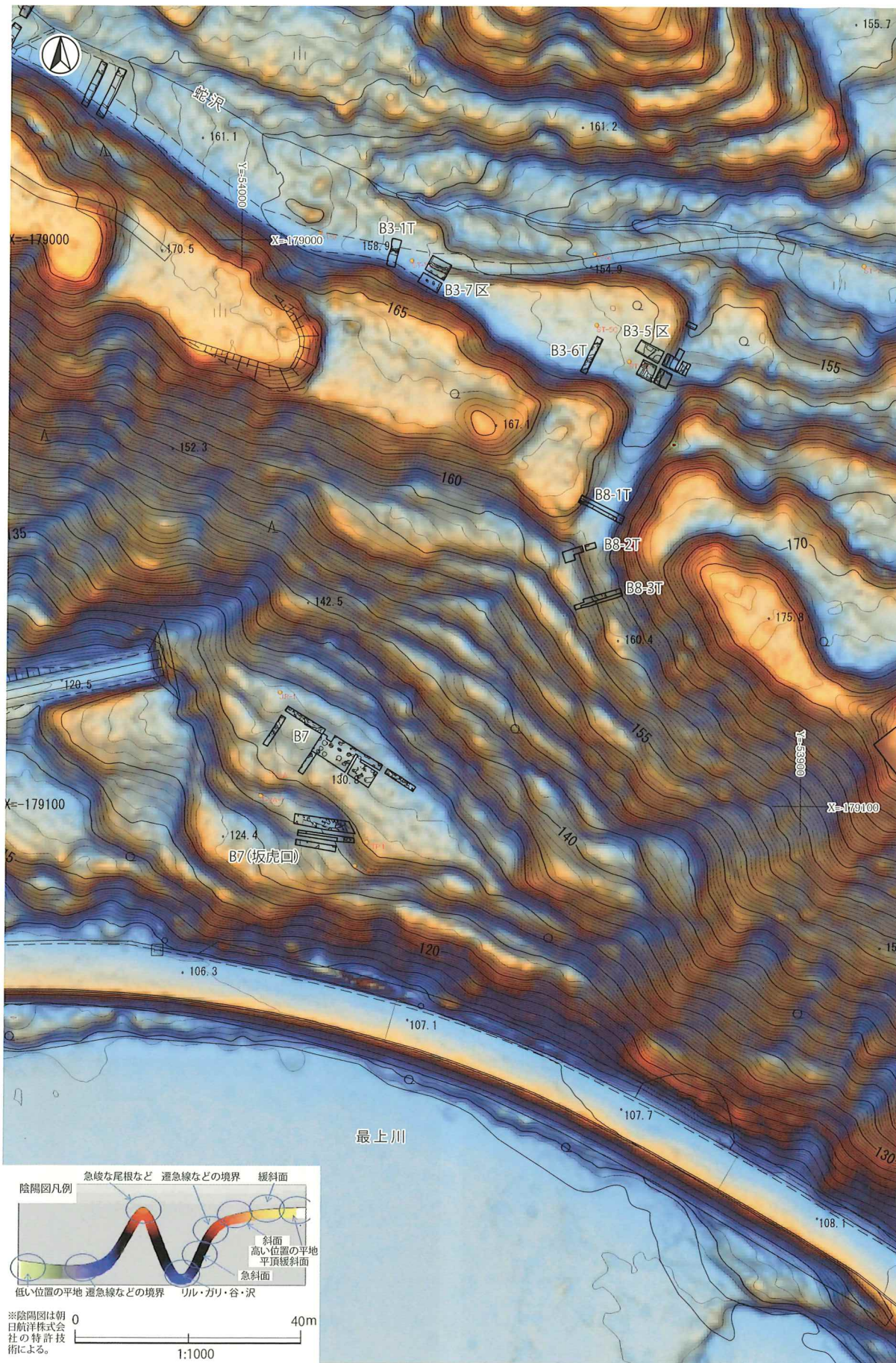


図 12 千畳敷地区陰陽図 (調査区配置図)

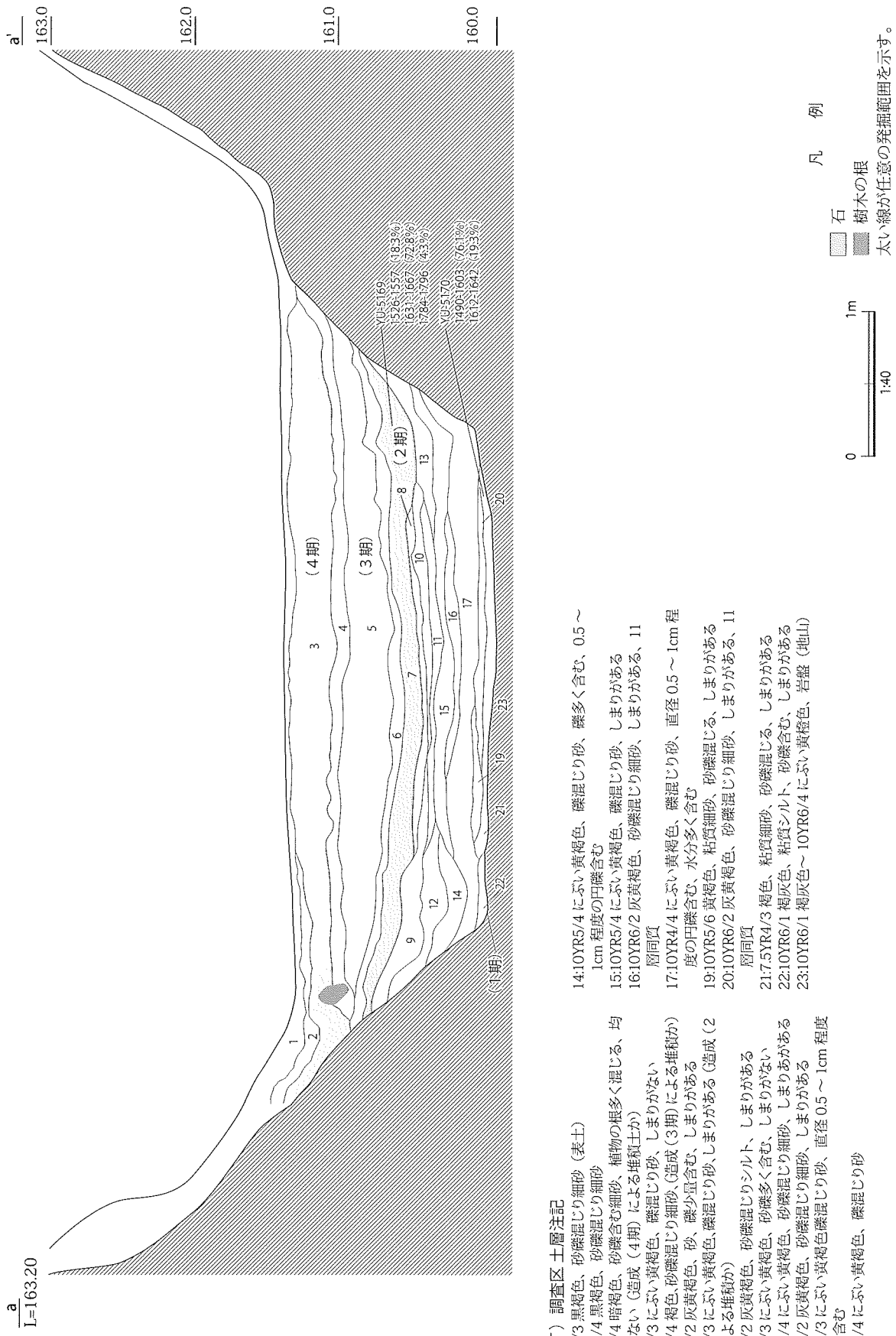


図 13 B8 堀切南側 土層断面図 (1T)

B8 (1T) 調査区 土層注記

- 1:10YR2/3 黒褐色、砂礫混じり細砂 (表土)
- 2:7.5YR3/4 黒褐色、砂礫混じり細砂
- 3:10YR3/4 暗褐色、砂礫含む細砂、植物の根多く混じる、均質ではない (造成 (4期) による堆積土か)
- 4:10YR4/3 にぶい黄褐色、礫混じり砂、しまりが少ない
- 5:10YR4/4 褐色、砂礫混じり細砂 (造成 (3期) による堆積か)
- 6:10YR5/2 灰黄褐色、砂、礫少量含む、しまりがある
- 7:10YR5/3 にぶい黄褐色、礫混じり砂、しまりがある (造成 (2期) による堆積か)
- 8:10YR6/2 灰黄褐色、砂礫混じりシルト、しまりがある
- 9:10YR5/3 にぶい黄褐色、砂礫多く含む、しまりが少ない
- 10:10YR5/4 にぶい黄褐色、砂礫混じり細砂、しまりがあがある
- 11:10YR6/2 灰黄褐色、砂礫混じり細砂、しまりがあがある
- 12:10YR5/3 にぶい黄褐色礫混じり砂、直径 0.5 ~ 1cm 程度の円礫含む
- 13:10YR5/4 にぶい黄褐色、礫混じり砂
- 14:10YR5/4 にぶい黄褐色、礫混じり砂、礫多く含む、0.5 ~ 1cm 程度の円礫含む
- 15:10YR5/4 にぶい黄褐色、礫混じり砂、しまりがあがある
- 16:10YR6/2 灰黄褐色、砂礫混じり細砂、しまりがあがある、11層同質
- 17:10YR4/4 にぶい黄褐色、礫混じり砂、直径 0.5 ~ 1cm 程度の円礫含む、水分多く含む
- 19:10YR5/6 黄褐色、粘質細砂、砂礫混じる、しまりがあがある
- 20:10YR6/2 灰黄褐色、砂礫混じり細砂、しまりがあがある、11層同質
- 21:7.5YR4/3 褐色、粘質細砂、砂礫混じる、しまりがあがある
- 22:10YR6/1 褐灰色、粘質シルト、砂礫含む、しまりがあがある
- 23:10YR6/1 褐灰色~10YR6/4 にぶい黄褐色、岩盤 (地山)

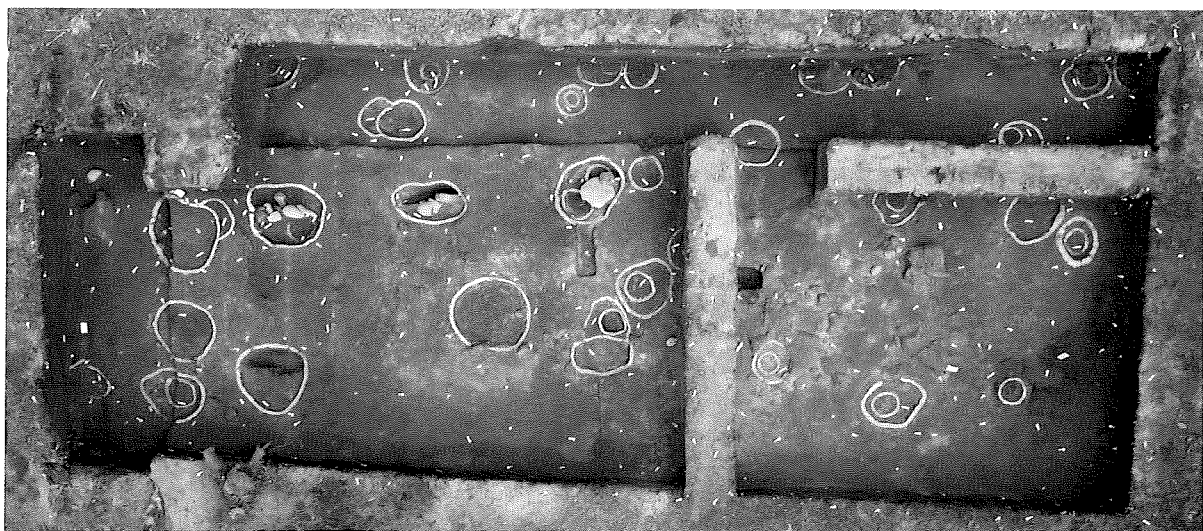
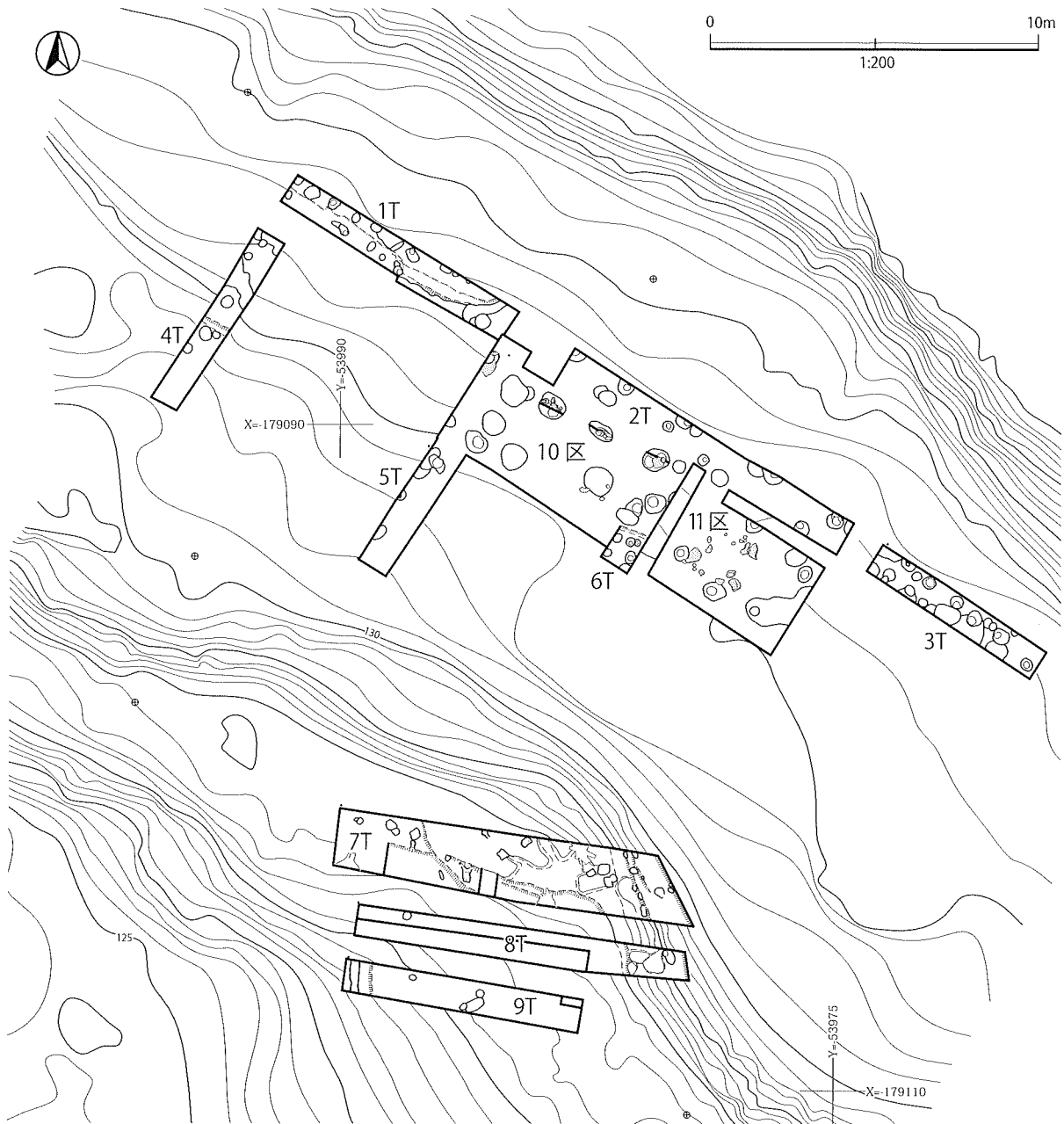


図14 B7調査区平面図（写真はB7調査区全景、平成28年度撮影）